



おたふくかぜ ワクチンについて



おたふくかぜは、どんな病気？

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎、ムンプス）の潜伏期間は2～3週間あり、主な症状は発熱と唾液腺の腫脹で、その症状が1～3日でピークになり、1週間で症状は治まります。他には、頭痛、倦怠感、首の痛みなどの症状があります。おたふくかぜは、合併症の頻度が高く、ワクチンでの予防が重要になってきます。また感染しても症状が出ない人も3割いるので、知らない間に感染が拡大する場合もあります。合併症には、10～100人に1人の割合で無菌性髄膜炎をおこします、また、まれですが脳炎、脳症などの神経の合併症では後遺症や時には、死に至る場合があります。他にも1,000人に1人の割合で難聴、また不妊の原因になる、精巣炎、卵巣炎、膵炎の合併症もあります。妊婦が感染すると流産する確率も高くなります。おたふくかぜに罹患して難聴になった80%は高度以上難聴であることもわかっています。また年齢的には年長児や成人が罹患すると症状も著明で合併症になる確率も高くなります。



ワクチンの効果

1歳前後で1回目接種することで発症者は88%減少し、さらに就学前に2回目を接種することで99%減少します。



ワクチンの副反応

接種後10～14日後に微熱や頬の後ろ、顎の下が腫れる場合があります。接種後3週間前後に無菌性髄膜炎が40,000人に1人発生するとされていますが、おたふくかぜに感染した場合より頻度も低く程度も軽いです。極めてまれにアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、難聴、精巣炎などの重い副反応がみられることがあります。



持ち物

- 母子手帳（母子手帳がなければ済書）
- 予診票（事前に記入してください。）
- 各医療機関の診察券や健康保険証



実施医療機関

- ・摩周厚生病院 015-482-2241
- ・弟子屈クリニック 015-482-2220
- ・美里クリニック 015-482-8888
- ・川湯の森病院 015-483-3121

※ワクチンを取り寄せるために時間がかかる場合がありますので、約1週間前には予約をしましょう。
また、接種後に経過を見る時間が必要なため、時間のゆとりがある日に行くようにしましょう。



接種スケジュールの確認

***助成は1歳～就学前で1回のみ**

接種開始年齢	回数	小児科学会 推奨スケジュール
1歳 (標準開始時期)	2回	



接種が遅れた方へ

3歳未満に初回接種することで、無菌性髄膜炎の合併症の頻度が低くなることが報告されており、1・2歳での初回接種を推奨します。3歳を超えて初回接種する場合は、主治医と相談の上、接種してください。

お問い合わせ先

弟子屈町役場健康こども課健康推進係

☎ 015-482-2935